

## 家庭礼拝ガイド 365 日－4月

| 日付   | 聖書箇所              | 中心聖句         | テーマ            |
|------|-------------------|--------------|----------------|
| 4/1  | 創世記 1:1～2:3       | 創世記 1:1      | 神の創造           |
| 4/2  | 創世記 1:27          | 創世記 1:27     | 神のかたちに         |
| 4/3  | 創世記 1:31          | 創世記 1:31     | 非常によかった        |
| 4/4  | 創世記 2:15～18       | 創世記 2:16, 17 | エデンの園          |
| 4/5  | 創世記 2:15～25       | 創世記 2:18     | ふさわしい助け手       |
| 4/6  | 創世記 3:1～19        | 創世記 3:6      | 罪の誘惑           |
| 4/7  | 創世記 4:1～8         | 創世記 4:7      | カインとアベル        |
| 4/8  | 創世記 6:9～22        | 創世記 6:22     | ノアの歩み          |
| 4/9  | 創世記 8:1～9:16      | 創世記 9:13     | 約束の虹           |
| 4/10 | 創世記 11:1～8        | 創世記 11:8     | バベルの塔          |
| 4/11 | 創世記 12:1～         | 創世記 12:1     | アブラハムの出発       |
| 4/12 | 創世記 18:16～33      | 創世記 19:29    | とりなしの祈り        |
| 4/13 | 創世記 19 章          | 創世記 19:17    | 振り返らないで        |
| 4/14 | 創世記 21:1～7        | 創世記 21:1     | 約束の成就：イサク誕生    |
| 4/15 | 創世記 22:1～14       | 創世記 22:14    | アドナイ・イルエ       |
| 4/16 | 創世記 24:32～64      | 創世記 24:27    | イサクの結婚         |
| 4/17 | 創世記 25:27～34      | 創世記 25:34    | レンズ豆と長子の権利     |
| 4/18 | 創世記 28 章          | 創世記 28:15    | 天国からむけられているはしご |
| 4/19 | 創世記 32 章          | 創世記 32:30    | 主との格闘          |
| 4/20 | 創世記 39 章          | 創世記 39:23    | 主が共におられる       |
| 4/21 | 創世記 45 章          | 創世記 45:8     | 神が私を遣わした       |
| 4/22 | 出エジプト 2:1～10      | 出エジプト 2:10   | モーセ誕生          |
| 4/23 | 出エジプト 3 章         | 出エジプト 3:10   | モーセの召命         |
| 4/24 | 出エジプト 12 章        | 出エジプト 12:13  | 過越しの祭り         |
| 4/25 | 出エジプト 13:17～22    | 出エジプト 13:22  | 導いて下さる神様       |
| 4/26 | 出エジプト 13:22～14:31 | 出エジプト 14:13  | 紅海             |
| 4/27 | 出エジプト 16:1～31     | 出エジプト 16:15  | マナ             |
| 4/28 | 出エジプト 17:8～16     | 出エジプト 17:12  | アマレク人との戦い      |
| 4/29 | 出エジプト 20:1～3      | 出エジプト 20:3   | ほかの神々があってはならない |
| 4/30 | 出エジプト 20:4～6      | 出エジプト 20:4   | 偶像を造ってはならない    |

4月1日

テーマ：天 地 創 造

聖書箇所：創世記1章1節～2章3節

◆今日のみことば

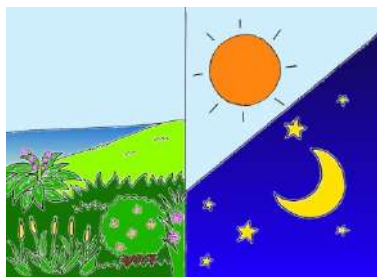
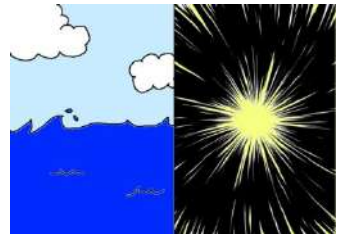
「初めに、神が天と地を創造した。」創世記1章1節

◆メッセージ

この宇宙と世界はどのようにしてできたと思いますか？

聖書の一番はじめにその答えがあります。「天」は宇宙全体のことで、「地」は地球です。すべては神さまによって造られました。神さまは創造主です。この世界は偶然に、自然にできあがったと言う人が多く、学校でもそのように教えています。けれども、世界中で、聖書の言う通りに信じている科学者たちや、たくさんのクリスチャンがいるのです。

創造主である神さまだけが、なんでもおできになり、どんなことでもご自分だけで決めることがおできになります。「『光があれ。』すると光があった」・・・神さまがことばで命じると、そのとおりにになりました。すべてのものは創造主のことばによって造られ、今も支えられているのです。天の父なる神さまとともに、神のみ子であるイエスさまは天と地をお造りになりました。「神の霊が水の上を動いていた」と2節にあるように、父と・子と・聖霊なる神さまが一緒に創造の働きをされました。時間も、場所も、材料も何一つないところに、ですよ。神さまにできないことはありません。このことを全能といいます。



光とやみ、大空と天の上と天の下にある水、海と陸地、太陽と月、魚、鳥、動物、最後に人間を造られました。この順番も大切です。神さまは、人間が生きていけるように、すべてを知恵深く造ってくださいました。造られた一つ一つには意味があります。

私たちは、この神さまが造ってくださった世界に、神さまの守りのうちに生かされています。

◆お祈り

「天地を造られた主の御名をほめたたえます。今日も、全能の神さまがお守りくださいますように。」

(西大寺キリスト教会牧師 赤江弘之)

4月2日

テーマ：神のかたちに

聖書箇所：創世記1章27節

◆今日のみことば

神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして彼を創造し、男と女とに彼らを創造された。1章27節

◆メッセージ

人間ってなんでしょう？

神さまが造られたほかの動物たちと、人間が違うのはどこだ  
と  
思いますか。その答えが、このみことばです。「人は神の  
かたちに創造された」これはどういう意味なのでしょう。

神さまにも髪の毛があるとか、手や二本あるとかいうこと？

いいえ、わたしたちの姿形から、神さまを思い描くということではありません。神さま  
のご性質である、きよさ、かしこさ、ただしさ・・・を人は理解する力をもっているとい  
うことなのです。愛し、赦し、喜び、悲しむ、などができる性質をもっています。なによ  
りも、「ことば」をもって交わることのできる性質、これこそ人間の一番すぐれた性質、人間  
らしさです。

私たちは、家庭で、父・母・きょうだいたちと交わります。少年、青年と成長して友と  
交わり、やがて結婚して新しい家庭をつくります。たくさんの人々と交わりが広がります。  
でも、何をおいてもまず第一に大切なのは、創り主である神さまと、祈りを通して語り合  
うことです。「祈り」を通して、私たちは神さまのみこころを知り、そして、周囲の人々の関  
わり方が整えられていきます。

森の木々や、草花、空を飛ぶ鳥、地を駆ける動物たちも、神さまをほめたたえています。

「ことば」をもって神さまと交わることができる私たちも、日々、力を尽くして神さまを  
賛美し、祈りをささげましょう。

◆お祈り

「神さま、私にくださったこのくちびる、この心の喜びを、今日もあなたの前に、喜んで  
ささげます。アーメン。」

(日高キリスト教会牧師 下川友也)



4月3日

テーマ：非常によかった

聖書箇所：創世記1章31節

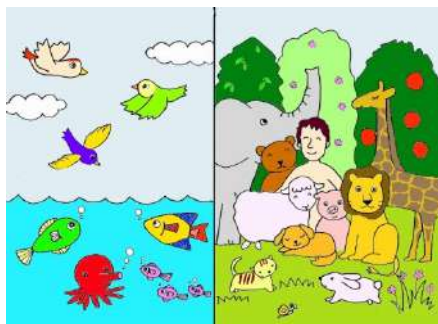
◆今日のみことば

「神はお造りになったすべてのものを見られた。見よ。それは非常に良かった。夕  
があり、朝があった。第六日。」創世記1章31節

◆メッセージ

「劣等感」という言葉を知っていますか。まわりの人と自分を比べて、「あー、自分  
はなんてダメなんだろう」とがっかりしてしまったり、自分を嫌いになってしまう心の  
ことです。じつは、私たちはそのような劣等感を、みんなが持っています。「〇〇ちゃん  
と比べて頭が悪い」とか「〇〇君よりはやくはしれない」など。中にはがっかりしす  
ぎて、自分には「生きている価値がない」と思いこんでしまう人もいます。

創世記1章には、神さまがどのようにして天地の  
すべてを創造されたか、が書いてあります。天と地の  
すべてのものを、ひとつひとつ種類に従って、すば  
らしい存在として創造されたのです。神さまが創  
造されたすべてのものは、「非常に良かった」のです。



「でも、僕はそんなに良くないよ」と思いますか。  
それは、私たちの心に罪があるので、そのように思ってしまうのです。罪を持ったま  
まの私たちは、ついつい人と自分を比べて、「勝った」「負けた」と競い合ってしまうの  
です。人と比べて勝ったので価値があるのでもなく、人と比べてダメな部分が多いの  
で価値がないのでもありません。

神さまは私たち一人ひとりを「そのまま」愛し、受け入れてくださっています。私たち  
が神さまに愛されている存在だからこそ、神さまは私たちが罪のために滅びてしまわ  
ないように、とイエスさまを十字架に付けて、私の罪の身代わりとし、私の罪を赦し  
てくださったのです。それほどに、もともとの私たち一人一人は、何ができなくても、  
人と比べて良いところがないように見えても、神さまが愛して下さっている存在なの  
です。

◆お祈り

「神様、私はついつい、自分と誰かを比べて、がっかりしてしまいます。でもそん  
な私を創造し、『非常に良かった』と言ってください、心から感謝します。」

(五日市聖書教会牧師 中尾信一)

4月4日

テーマ：エデンの園<sup>その</sup>

聖書箇所：創世記<sup>そうせいき</sup> 2章<sup>しょう</sup> 15節<sup>せつ</sup>～18節<sup>せつ</sup>

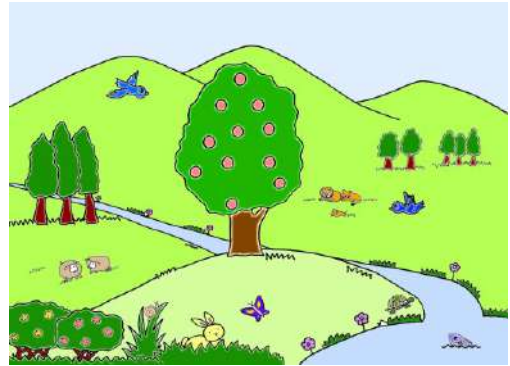
◆今日のみことば

“神である【主】は人に命じて仰せられた。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」 創世記2章16, 17節

◆メッセージ

エデンの園には、土地を潤す川が流れ、「見るからに好ましく食べるのによい良いすべての木」が生えていました。想像できないくらいすばらしいところでしょう。神さまは、ここに人を住まわせ、豊かに暮らすことができるようにしてくださいました。寝て暮らすのではなく、土地を耕して管理するように任せてくださいました。仕事があるって、やりがいがありますね。実った種を蒔たり、新しい木のために古い木を抜いたり、枝を切ったり、水やりを工夫して、園はますます豊かになります。

このエデンの園は、人のものではなく、神さまのものです。ですから、中のものを勝手に自分のものにしてはいけません。でも、神さまは「エデンの園にあるどの木からでも、好きなだけ実を食べてもいいよ。」とおっしゃってくださいました。エデンの園には、おいしそうな木の実があふれていました。毎日食べても食べきれないくらい。一つだけ、食べ



てはいけない実がありました。「善悪を知る木」の実です。エデンの園の持ち主である神さまが「取ってはいけない」と言われたのですよ。その木の実を食べると死ぬからです。神さまは、人を守るために「食べてはならない」と言われました。神さまがしてはいけないということは、私たちを守るためですから、しっかりと聞き従いましょう。

神さまは、私たちに食べ物、住むところを備えてくださり、生きるために必要なものを与えてくださっています。今日も神さまが守ってくださいています。することが与えられていることも、大切です。食べること、寝ること、勉強すること、お手伝い…今日も、力をつくしましょう。

◆お祈り

「神さま、たくさんの恵みをありがとうございます。今日も、自分のすべきことを喜んでします。」  
(習志野台キリスト教会牧師 丸山園子)

4月5日

テーマ：ふさわしい<sup>たす て</sup>助け手

聖書箇所：創世記2章15節～25節

◆今日のみことば

「人が、ひとりでいるのは良くない。わたしは彼のために、彼にふさわしい<sup>たす て</sup>助け手を造ろう。」創世記2章18節

◆メッセージ

学校や幼稚園で、みんなで力をあわせてなにかをやったことがありますか？ブロックで大きなロボットを作ったり、劇をしたり、みんなで声を合わせて歌を歌ったり。ひとりでやるのもいいけれど、みんなでやるともっといいものができるし、だいたい声をあわせてうたうなんて、ひとりじゃできないね。

神さまは、人間の中で最初に男の人アダムさんをお造りになりました。そして、アダムさんにすてきなエデンの園を守る仕事をくださいました。でもアダムさんはひとりぼっち。動物はたくさんいますが、お仕事するなかまはいませんでした。だいじなお仕事をするのに、ひとりではさびしいですね。そこで神さまは、アダムさんにすばらしい「助け手」を造ってくださいました。「助け手」というのは、助け合っ<sup>たす あ</sup>ていっしょにお仕事をする人のことです。その人は、エバさんという女の人でした。

アダムさんは本当にうれしくて、エバさんと結婚しました。ふたりいっしょなら、こまったときも、かなしいときも、はげましあうことができます。うれしいときはいっしょによろこぶことができます。神さまはアダムさんに、すばらしいプレゼントをくださったのです。神さまはわたしたちがみんなで力を



あわせて、神さまのためにいろいろなことをするように、たくさんの人を造ってくださいました。かぞくやおともだち、わたしたちのまわりの人はそのためにいます。男の人だけではなく、女の人だけでもなく、男の人と女の人<sup>りょうほう</sup>の両方がいるのもそのためです。

みんなは家族がいてうれしいなあ、おともだちがいてうれしいなあ、と思いますか。神さまが、すてきな人たちをわたしたちのまわりにおいてくださったことを感謝しましょう。そして、いっしょに力をあわせて、神さまのためのお仕事をしましょう。みんなにもできるお仕事がきっとありますよ。

◆お祈り

「わたしのためにすてきな家族、おともだちをくださってありがとうございます。みんなで、神さまのためにお仕事をする<sup>しごと</sup>ことができますように。」

(国立キリスト教会牧師 本澤敬子)

4月6日

テーマ：罪の誘惑

聖書箇所：創世記3章1節～19節

◆今日のみことば

“そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。” 創世記3章6節

◆メッセージ

私たちのまわりには、楽しそうなこと、興奮するようなこと、きれいなものがたくさんあります。そして、つい欲しくなり手を出してしまいそうになりますが、そこには悪いことに誘う力も働いていることを知ってください。たとえば、「お店のものをだましてもらおうよ。」と言われても、小さなものでも万引きは盗みと同じ罪です。友だちからと言われても、

おかしいと思ったら断る勇気が必要です。このごろは、麻薬やドラッグなど危険なこともあります。

アダムさんとエバさんは、今、善悪を知る木の前にいます。そう、神さまから「取って食べてはならない。」と言われていた木の実。神さまが、危険や苦しみから私たちを守るために与えてくださった、大切な命令でした。悪魔が言いました。「神さまが言ったことは本当？食べても死なないよ。食べてごらん。」と、神さまの命令を破るように誘惑しまし

た。エバさんは、神さまのことばよりも悪魔のことばに心を向けました。木の実をじっと見ていたら、とてもおいしそう。「食べてみたい」という気持ちでいっぱいになって、食べてしまいました。そして、アダムさんにも渡しました。アダムさんも食べてしまいました。すると二人は恥ずかしくなり、心が苦しくなって神さまの前に出られなくなりました。それまでは、神さまと何でも自由に楽しくお話ができ、何も隠さなくて良かったのに。とても悲しいことですね。

悪魔は、神さまのみことばから私たちをひき離そうとしています。イエスさまは悪魔の誘惑にあった時に、「聖書にはこう書いてある。」と言って、見事に勝たれました。悪魔は、神さまのみことばには勝てません。私たちも神さまのみことばに心を向け、聖書のみことばをしっかりと覚えていきましょう。



◆お祈り

「天の父なる神さま。私を試みに会わせないで、悪からお救いください。」

(室蘭キリスト教会グロリアチャペル牧師 藤山勝彦)

4月7日

テーマ：カインとアベル

聖書箇所：創世記4章1節～8節

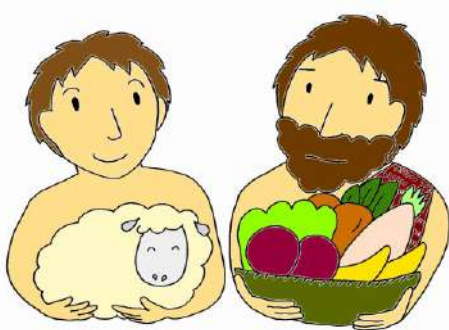
◆今日のみことば

“あなたが正しく行なったのであれば、受け入れられる。ただし、あなたが正しく行っていないのなら、罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕っている。だが、あなたは、それを治めるべきである。” 創世記4章7節

◆メッセージ

あなたはどのようにして神さまにささげ物をささげていますか。

カインさんとアベルさんは兄弟です。農夫になった兄カインさんは畑で取れた作物をささげました。羊飼いになった弟アベルさんは一番良い子羊をささげました。すると神さまは、カインさんのささげものは受け取らず、アベルさんのささげものを受け取りました。



聖書には、「アベルとそのささげもの」、「カインとそのささげもの」と書いてあるように、神さまはささげ物だけではなく、それをささげた人をご覧になっていることがわかります。ですから、大切なのは、ささげた物が良い物とか値段が高いとかではなく、ささげ物をしている人の心です。

神さまにささげ物を受け取ってもらえなかったカインさんはひどく怒りました。アベルさんに負けたような悔やしい気持ちでいっぱいでした。怒りの心で、アベルさんなんかいなくなってしまう、と考えていました。その時のカインさんの心は神さまに向けられずに、弟アベルさんしか見ていませんでした。

そんなカインさんに神さまは声をかけられました。「怒りをしずめなさい。わたしを見あげ、わたしがよいとすることをしなさい。」。あなたがカインさんだったら、そして、この御声を聞いたら、どうするでしょうか。静かになって、自分の心を落ち着かせて見つめ直すことができるでしょうか。カインさんは怒っていますが、神さまは怒っておられません。神さまは人に向いてしまう私たちの心を神さまに向けさせようとしてくださっているのです。神さまに心を向けましょう。人と比べる必要はありません。

◆お祈り

「神さま、怒りをしずめ、神さまに喜ばれる心を持つことができますように。」

(新札幌福音教会牧師 野口隆英)



4月8日

テーマ：ノアの歩み

聖書箇所：創世記6章9節～22節

◆今日のみことば

「ノアは、すべて神が命じられたとおりにし、そのように行った。」

創世記6章22節

◆メッセージ

殺人事件・戦争・・・悲しいニュースに心が痛みます。ノアさんの生きていた時代もそうでした。人々にとって、神さまのみどころより、自分がいいと思うこと・好きなことが大事。自分の思い通りにしようとする人たちがぶつかって、あちらこちらでけんかや争いばかり。そんな中で、ノアさんは、神さまとともに歩む人でした。周りの人がどうであっても、神さまとともに歩む人は、神さまのみことばを聞いて従う人です。自分の好きなことをして、おもしろおかしく生きている人のことをうらやましく思うことはありませんか。日曜日のスポーツクラブやゲームや買い物・遊びに行くよりも、神さまを礼拝するのは、なぜでしょう。

悪がそのままにされることはありません。神さまは、洪水をもって地を滅ぼすことを、ノアさんに知らせました。洪水から守るために、舟を作ることを命じられました。舟に使う木も、大きさも、形も、舟に入るために準備することも、教えていただきました。

洪水なんて起こりそうもありませんでした。こんな時に、大きな箱型舟を作るなんて、友だちにかかわられたり、バカにされそうなことでした。長さ132m、幅22m、高さ30mの巨大な船！力仕事は何日もかかったことでしょう。でも、ノアさんは、神様が教えてくださったとおりにしました。ゴフェルの木を伐り、屋根に天窓をつけて三階建ての箱型の舟を作りました。



た。ノアさんは、神さまとともに歩む人でした。神さまは、箱舟をもってノアさん家族を守ってくださいました。

◆お祈り

「神さま、ほかの人がどうであっても、どんなことでも、神さまのみことばに従うことができますように。」

(習志野台キリスト教会牧師 丸山園子)

4月9日

テーマ：約束の虹

聖書箇所：創世記8章1節～9章16節

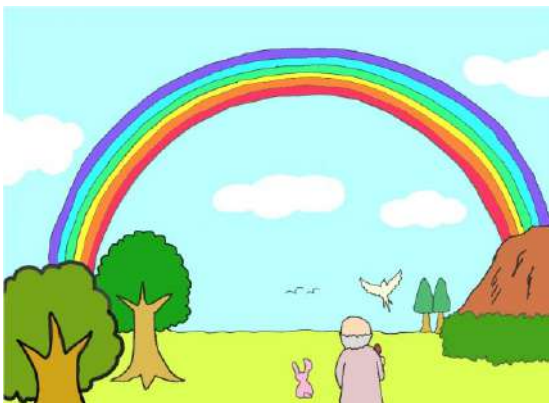
◆今日のみことば

“わたしは雲の中に、わたしの虹を立てる。それはわたしと地との間の契約のしるしとなる。” 創世記9章13節

◆メッセージ

神さまが仰せられたように、雨が降り始めました。雨は40日40夜降り続けました。大洪水で世界は、水浸しでした。ノアさんたちはどうなったでしょう？

神さまは、箱舟の中にいるノアさんとその家族のことを覚えていました。神さまが風を吹かせると、水は減り始めたのです。箱舟はアララテ山(5,110呎)の上にとまりました。水はどんどん少なくなり、やがて山のてっぺんが見えてきたのです。そのときノアさんは、窓を開けてカラスを、続いて鳩も放しました。7日たって再び鳩を放すと、なんと、オリーブの若葉を加えて帰ってきました。水が引いて、地面が出てきた証拠です。そして「箱舟から出なさい」という、神さまからの声がありました。ノアさんたちが箱船の中にいたのは、約1年です。水の上を約5ヶ月間、山の上に約7ヶ月間、とどまっていたのです。



箱舟を出た後、ノアさんはまず祭壇を築き、全焼のいけにえをささげました。この全焼のいけにえは、神さまだけに信頼し、自分のすべてをささげて従う心を表しています。神さまはノアさんに「もう二度と、洪水によって全世界を滅ぼすようなことはしない」と約束されました。そのしるしが虹です。すべての人間と、また地上にいるすべての動物たちと、このずっと変わる事のない約束を結ばれました。

神さまは、約束したことを必ず守ってくださいます。神さまは、約束して下さったとおりに、ノアさん家族を船の中で守って下さったでしょう？

虹は、とてもきれいですよね。この虹を見るたびに、神さまが助け、守ってくださることを思い出しましょう。

◆お祈り

「神さま、みことばの約束を信じています。神さまに聞き従います。わたしたちの命も生活もお守りください。」

(釧路虹の教会牧師 小畑光弘)

4月10日

テーマ：バベルの塔<sup>とう</sup>

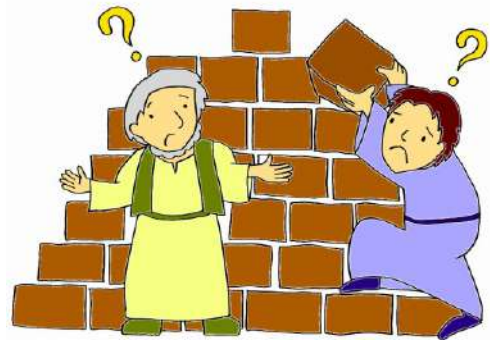
聖書箇所：創世記<sup>そうせいき</sup> 11章<sup>しょう</sup> 1節<sup>せつ</sup>～8節<sup>せつ</sup>

◆今日のみことば

“こうして【主】は人々を、そこから地の全面に散らされたので、彼らはその町を建て  
るのをやめた。” 創世記 11章 8節

◆メッセージ

大洪水のあと、ノアさんの息子たちからたくさんの子孫が生まれ、人は地上にどんどん増  
えていきました。この頃、全地は一つのことばしかありませんでした。人々は自分たちの  
住むところを探して移動し、石や粘土で家を立て始めましたが、次第に「もっと軽くて 丈夫  
で、簡単に家を建てる方法はないだろうか」と考えました。そこでレンガとアスファルト  
を発明しました。神さまは便利なものや楽しいものを発明するための知恵やすぐれた能力  
を人間に与えてくださったのです。神さまって素晴らしいですね。これによって人々は今ま  
でよりも簡単に家を建てられるようになりました。しかし、そのうちに人々は「みんなで  
一緒に大きな町を建て、天まで届く高い塔を建て、名をあげよう。私たちはそれができる  
能力をもっているのだから。」と言い始めました。人々はいつの間にか自分の力にうぬぼ  
れて、神さまから与えられた能力を、神さまに喜んでいただくために用いるのではなく、  
自分の名前を天高く上げ、「自分たちは神より上なんだ」と示すために用いるようになった  
のです。神さまはこのような人々の姿をご覧にな  
って非常に心を痛め、悲しまれました。そこで神さ  
まは人間の言葉を互いに通じないようにされたの  
です。塔を建てていた人々は、突然言葉が通じなく  
なり、互いに何を言っているのかわからなくなり、  
ついに塔を建てることをやめて全地に散らばって  
いきました。



良い成績を取るために一生懸命勉強をしたり、  
優勝を目指してスポーツを頑張ることは決して悪いことではありません。しかし自分の  
能力にうぬぼれて、神さまが素晴らしいお方であることを忘れ、神さまより自分の方が偉  
いと思い違いをしないように気をつけましょう。いつでも「私ではなく、神さま、あなた  
こそ一番素晴らしいお方です。」ということを心と態度であらわすようにしましょう。

◆お祈り

「神さま、あなたこそ素晴らしいお方です。わたしたちの家族が、神さまの素晴らしさを  
ほめたたえる賛美でひとつになれるように。」

(伊達福音教会牧師 三浦称)

4月11日

## テーマ：アブラハムの出発

聖書箇所：創世記12章1節～4節

### ◆今日のみことば

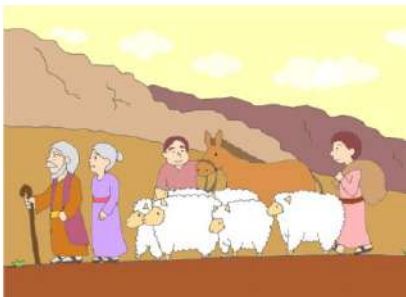
“【主】はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。」創世記12章1節

### ◆メッセージ

今、あなたは何才ですか。アブラムさん（ここではアブラム、ですがのちにアブラムと名前を変えました。）は、75才でした。カルデアのウルから引っ越したカランの地ですっかり落ち着いて、サラさん（ここではサライ、ですがのちにサラと名前を変えました。）と結婚していました。お父さんや兄弟たちも一緒です。そんな時に、神さまから語りかけがありました。「ここを出て行きなさい。」知っている人々に囲まれ、守られ、安心して生活している所を離れるのは、不安でしょう。知らないところに行くと、どんな人たちがいるのか、どんな生活が待っているのか、心配になります。だから、今のママがいいという気持ち。でも、慣れているところだと人の思いが気になって周りに合わせたり、このくらい自分の力でできると思ってしまう。新しいこと、新しいところだからこそ、神さまだけに頼り、神さまが守ってくださる体験ができます。

そして、神さまが語られたことは「行きなさい。」という命令だけではありません。約束があります。約束は、アブラムさんを良い地に導き、アブラムさんを通して神さまに従う国民が生まれる、というものでした。

アブラムさんは、出発しました。神さまの約束を信じて出発しました。



ここから、イスラエルの歴史が始まります。神さまは、約束してくださった通り、アブラムさんをイスラエルの先祖としてくださいました。神さまの約束を信じて従う私たちの「信仰の父」としてくださいました。人は、お父さん、お母さんや親しい人に頼り、甘えやすいのですが、私たちをつくられた神さまは、見えないところから私たちがじっと見守ってくださり、「わたし

に頼って生きてごらん。」とおっしゃっているのです。

### ◆お祈り

「神さま、今日も、すべてを見守ってくださる神さまにしっかり頼ることができますように。」  
(青森シオンキリスト教会牧師 鯉渕千者也)



4月12日

テーマ：とりなしの祈り

聖書箇所：創世記18章16節～33節

◆今日のみことば

“こうして、神が低地の町々を滅ぼされたとき、神はアブラハムを覚えておられた。それで、ロトが住んでいた町々を滅ぼされたとき、神はロトをその破壊の中からのがれさせた。” 創世記19章29節

◆メッセージ

カナンの地に導かれた後、アブラハムさん甥のロトさんと分かれて住むことになりました。神さまの祝福を受けて、家畜が増えたために広い土地が必要になったからです。ロトさんは、緑多くにぎやかなソドムとゴモラの町を選んで住みました。この町の人々は、神さまを恐れず、自分たちの欲のままに重い罪を犯し続けていました。やがて、神さまは、ソドムとゴモラの町を滅ぼすことにしました。

神さまは、そのことをアブラハムに教えてくださいました。アブラハムさんはどうしたと思いますか？「悪い町なんだから、仕方ない。」と知らんぷりしたでしょうか。いいえ、神さまに祈りました。その町には、ロトさん家族がいます。「神さま、その町に五十人の正しい信仰者がいるかもしれません。その五十人のためにお赦しくださいませんか。」とお尋ねしたら、神さまは、滅ぼさないと約束して教えてくださいました。でも、五十人もいないかも

しれません。それで神さまに四十五人がいたら、四十人、三十人、二十人、十人と、六回もお願いをしました。神さまは、アブラハムの祈りをすべて聞いて受け入れてくださいました、「滅ぼさないよ。十人のために」。ところが、最後の十人の正しい信仰者もいなかったのです。ソドム



とゴモラの町は滅ぼされることになりました。ロトさんの家族はどうなったでしょう？“神はアブラハムを覚えておられた。”アブラハムさんは、甥と町の救いのために、何度も何度も一生懸命祈りました。神さまはそれを覚えてくださってロトさんを救って教えてくださいました。

神さまがソドムとゴモラの町を滅ぼすご計画を知らせた理由がわかりますね。そうです！アブラハムが他の人のために祈る「とりなしの祈り」の人になることを望んだからです。神さまはあなたにもとりなしの祈りの人になることを望んでおられます。自分のことだけでなく、家族のこと、友だちのこと、住んでる町の人たちのために祈りましょう。

◆お祈り

「祈りの課題の幅がますます広がり、粘り強く答えられるまで祈るとりなしの祈りの人になれますように。」  
(登戸教会牧師 李俊昊)

4月13日

テーマ：振り返らないで

聖書箇所：創世記19章1節～29節

◆今日のみことば

彼らを外のほうに連れ出したとき、そのひとは言った。「いのちがけで逃げなさい。うしろを振り返ってはいけない。この低地のどこでも立ち止まってはならない。山に逃げなさい。さもないと滅ぼされてしまう。」創世記19章17節

◆メッセージ

神さまはロトさん家族を救い出し、ソドムとゴモラの町を裁くためにみ使いを送りました。ロトさんは、み使いたちを見つかるなりひれ伏してから自分の家に迎え入れ、精一杯のおもてなしをしました。ところが、町中の人たちはロトさんの家まで押しかけて、み使いたちに乱暴なことをしようとしました。み使いが町の人に目つぶしをしてロトさんを守っていただきました。

み使いはこの町の罪があまりに大きくなってしまったので、この町を滅ぼしにきたことをロトさんに伝えます。そして、ロトさんに妻と娘たちをつれて逃げるように命じました。

「いのちがけで逃げなさい。うしろを振り返ってはいけない。この低地のどこでも立ち止まってはならない。山に逃げなさい。さもないと滅ぼされてしまう。」でも、とても山まで逃げきれないとおもったロトさんは、近くの小さな町に逃げることをお願いしました。神さまはその願いも聞いてくださいました。ロトさん家族は、その町目指して走りました。ところが、神さまがソドムとゴモラの町を硫黄の火



で滅ぼされたとき、ロトさんの妻は、振り返ってしまいました。振り返らずに逃げるように言われたのに。ロトさんの妻は、町に残してきたものが心残りでした。町での楽しい生活が忘れられなかったのです。振り返ったロトさんの妻は、塩の柱になってしまいました。

神さまは、私たちが罪の裁きから救い出すために手を差し伸べてくださるお方です。救い主イエスさまの十字架のもとに来るように。でも、罪の楽しみの方を振り返っていませんか。神さまは、「いのちがけで逃げなさい。悪い行いから離れなさい」と言われるお方です。あなたには今、離れるべきことやめるべき行いはありませんか。

◆お祈り

「神さまが、罪から救ってくださることに感謝します。どうか罪から完全に離れることができるように助けてください。」  
(富川福音教会牧師 本多民生)



4月15日

テーマ：アドナイ・イルエ

聖書箇所：創世記22章1節～14節

◆今日のみことば

“そしてアブラハムは、その場所を、アドナイ・イルエと名づけた。今日でも、「主の山の上には備えがある」と言い伝えられている。” 創世記22章14節

◆メッセージ

自分の一番大切なもの・・・だれにも上げたくない。貸したくない。そういう心はありますか。もし、あなたの一番大切なものを、神さまは「わたしのために・・・、下さい。」と言ったらどうでしょうか。私たちは「はい。わかりました。」と言って、差し出すことができるでしょうか。

イサクさんが丈夫に育って、若々しく大きくなったころ、神さまは再び、アブラハムさんに言いました。「あなたの愛する息子、イサクをわたしにささげなさい。」と。アブラハムさんは、いつのまにか神さまから与えられた息子イサクさんを、自分のもののように思っていました。でも、神さまのみことばです。アブラハムさんは神さまの声に従って、「モリヤの山（神さまが決めた山）へイサクさんを連れて行きました。イサクさんはお父さんに「たきぎは用意しましたが、いけにえの羊はどこにありますか。」と尋ねました。アブラハムさんは息子イサクさんに「神さまが備えて下さいますよ。」と答えました。



山について礼拝をささげるため、場所を用意してたきぎをのせ・・・。そして次にイサクさんをしばってそのたきぎの上にのせました・・・、アブラハムさんが刀でイサクさんを刺そうとしたとき、神さまは「アブラハム。その子に手を下してはいけません。」と言いました。山のやぶに角をひっかけて動けないでいる羊

がいました。神さまがイサクさんの代わりにささげるいけにえを用意して下さっていました。アブラハムさんはその羊をイサクさんの代わりにして神さまに礼拝を捧げました。



神さまは、私たちの大切なものを取り上げるお方ではありません。世界のすべては神さまのものですから。神さまが求めておられるのは、神さまを一番にすること。神さまを一番にする歩みを、神さまが守ってくださいます。私たちも、自分の大切なものを進んでささげて、神さまを礼拝したいですね。

◆お祈り

「神さま。私も自分の大切なもの、大切な時間を進んで捧げて、あなたを礼拝できますように。」

(登別中央福音教会牧師 高橋敏夫)



4月16日

テーマ：イサクの結婚

聖書箇所：創世記24章32節～64節

◆今日のみことば

“言った。「私の主人アブラハムの神、【主】がほめたたえられますように。主は私の主人に対する恵みとまこととお捨てにならなかった。【主】はこの私をも途中つつがなく、私の主人の兄弟の家に導かれた。」 創世記24章27節

◆メッセージ

お父さんとお母さんが結婚した時の話を聞いたことがありますか。お父さんとお母さんに話してもらいましょう。この結婚によって、今の皆さんが存在するようになったわけですから、お父さんとお母さんが結婚したことに感謝しましょう。

アブラハムさんは、息子イサクさんの結婚のことを祈っていました。イサクさんの妻となるものの条件は、信仰が全然違うカナン人の娘ではなく、信仰が似ている親族の娘の中から選ぶことでした。結婚は二人が一つになることです。結婚相手の影響は大きいものです。ですから、結婚相手を選ぶときに、一番先に確認すべきことは、同じ信仰を持っているかどうかなのです。金持ちなのか、美人なのかではなくて、自分と同じ神を信じている者を選ぶときに祝福される結婚となります。アブラハムさんは、しもべをカランの地に遣わ

して、イサクさんのお嫁さんを連れてくるようにと言いました。でも、たくさんいる女の人のなかで、どの人？しもべは祈りました。「『らくだにも水を飲ませましょう。』と声をかけてくれる娘さんに会わせてください。その人こそイサクさんにふさわしい優しいお嫁さんになるでしょう。出会いも、神さまのみ手の中にありますね。



すると、そこに一人の女性が来て声をかけました。それが、リベカさん。なんと、アブラハムさんの親せきでした。アブラハムさんのしもべは、リベカさんの家に案内してもらい、早速、旅の理由、神さまの導きを説明しました。その話を聞いて、リベカさんは、神さまの導きに従ってイサクさんと結婚する決心をしました。まだ一度も会ったことがなくても、神さまが導いてくださっているのですから、安心です。こうして、イサクさんとリベカさんは結婚しました。

皆さんもいつか結婚するでしょう。今から、楽しみに祈りましょう。祈りは具体的に。神さまは父なる神ですから、子どもである私たちの祈りを必ず聞いてくださいます。神に祝福される結婚生活を送るためにも、神が喜ぶ結婚を祈りましょう。

◆お祈り

「神さま、両親の結婚を感謝します。私も神さまに喜ばれる結婚をすることができますように。」  
(小湊キリスト福音教会牧師 張賢國)

4月17日

テーマ：レンズ豆<sup>まめ</sup>と長子<sup>ちやうし</sup>の権利

聖書箇所：創世記<sup>そうせいき</sup>25章<sup>しょう</sup>27節<sup>せつ</sup>～34節<sup>せつ</sup>

◆今日のみことば

“ヤコブはエサウにパンとレンズ豆<sup>まめ</sup>の煮物<sup>にももの</sup>を与えたので、エサウは食べたり、飲んだりして、立ち去った。こうしてエサウは長子<sup>ちやうし</sup>の権利<sup>けんり</sup>を軽蔑<sup>けいべつ</sup>したのである。”

創世記<sup>しょうせい</sup>25章<sup>しょう</sup>34節<sup>せつ</sup>

◆メッセージ

子どもの頃に旅行へ行った時のお話です。初めに立ち寄った場所のお土産コーナーで、私は特に欲しいものが見つかりませんでした。でも何かを買いたいと思った私はその場所で目に留まったものを買いたいと思いました。両親には、今は我慢しなさいと言われたのですが、買いたいという気持ちがおさえられませんでした。そして、それほど欲しくないものを買ってしまい、次の日には本当に買いたいと思っていたものが買えない悲しい思いをしたのです。



結婚したイサクさんとリベカさんには、双子の男の子が与えられました。長男エサウさん、次男ヤコブさん。ある時、エサウさんは、狩りに行きお腹を空かせて帰ってきました。と、いいにおい。ヤコブさんがレンズ豆の煮物を作っていました。そして、レンズ豆の煮物と神さまからの祝福を受け継ぐ長子の権利と引き換えにしていきました。後になってヤコブさんが祝福を受け継ぐ

ぐことになった時、エサウさんは泣きながらお父さんであるヤコブさんに祝福をくださいと願ったけれどもかなえられませんでした。

私たちに、イエスさまを信じる神の子どもとしてたくさんの恵みが御言葉の中で約束されています。それは「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、そして、人の心に思い浮かんだことのないもの」(Iコリント2章9節)と書かれているほど素晴らしいものなのです。そのようなプレゼントを用意してくださっている神さまがおられるのに、エサウさんのように一時の目の欲で、それを失ってしまうことはとても残念ではないでしょうか。私たちの必要を知り、すべてを準備してくださる神さまがおられることを信じ、肉の欲、目の欲に流されることなくその素晴らしい恵みを待ち望む信仰をもちましょう。

◆お祈り

「神さま、いつも素晴らしい恵みを感謝します。その神さまからの祝福と恵みを待ち望む信仰を与えてください。」  
(衣笠中央キリスト教会牧師 三浦峰人)

4月18日

テーマ：天から向けられているはしご

聖書箇所：創世記28章1節～22節

◆今日のみことば

“見よ。わたしはあなたとともにあり、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ戻そう。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。” 創世記28章15節

◆メッセージ

お父さんやお母さんと聖書の話聞くのは好きですか？聖書のお話は好きだけど、神さまのことを信じているかな？ここに出てくるヤコブさんは、イサクお父さんやリベカお母さん、そしてエサウお兄さんらとずっと神さまの話を聞いて育ちましたが、まだ「僕は神さまを信じてる！」ってわけではなかったようです。

そんな中、ヤコブさんは兄弟げんかや家庭の問題がひどくなって、一人で旅に出なければならなくなりました。遠いハランという土地まで、その日どこに泊まるかの準備



もないまま旅立ったのです。とぼとぼ進み、ちょうど日が沈んだので、ヤコブさんはそこに転がっている硬い石を枕にキャンプをしました。すると夢のなかで、一つのはしごを天使が上り下りしているのを見たのです。そこで、神さまは①ヤコブさんがどこへ行っても守ってくださること、②お父さんお母さんのいる場所へ連れ戻してくださること、③決して捨てないことを約束してくださいました。

ヤコブさんが目覚めたとき、「なあんだ、夢だったのか……」とがっかりしませんでした。ヤコブさんは夢の中の出来事と約束に驚いて「まことに主がこの所におられるのに、私はそれを知らなかった」と、神さまを信じる決心をしたのです！神さまは、ヤコブさんが神さまを信じるより先に、ヤコブさんのそばまで来てくださり、ヤコブさんが一人ぼっちでいる時に、すばらしい約束をしてくださいました。家にいられなくなって、一人でさびしく旅をするヤコブさんにとって、どこでもずっと守って、家に戻してくれると約束してくれる神さまにお会いしたことが、たまらなく嬉しかったのです。この約束がどれだけ確かかってことは「天から地に向けて立てられているはしご」ということを読むとわかります。地上から立てたはしごを上るのではなく、天からかけられたはしごなら、ぜったいに天国へ入ることができます。今日も、神さまは君のそばに立って、ずっと守ってくださること、必ず天国に連れてってくださること、ぜったいに捨てないって約束をしてくださっているよ。その声が聞こえたら「はい！！」って答えようね。

◆お祈り

「神さまがいつもそばにいて守ってくださること、感謝します。この神さまを知り、信じることができるよう。」  
(盛岡みなみ教会牧師 大塚史明)

4月19日

テーマ：主との格闘

聖書箇所：創世記32章13節～32節

◆今日のみことば

“そこでヤコブは、その所の名をペヌエルと呼んだ。「私は顔と顔とを合わせて神を見たのに、私のいのちは救われた」という意味である。”創世記32章30節

◆メッセージ

不安なことがある時、どうしたらいいのでしょうか。逃げ出す？でも、逃げられないこともあるよね。ヤコブさんは、20年ぶりに故郷に帰るため、家族と多くの家畜を連れてとても長い旅をしていました。帰るのは、神さまの約束でしたね。ヤボク川を渡れば、なつかしいお父さんお母さんがいる家がずっと近くなります。どんなにその日を待ち望んでいたことでしょうか。でも、川の岸辺でヤコブさんの足がピタリと止まって動きません。お兄さんに会わなければならないことを恐れたからです。エサウ兄さんは、ヤコブさんの言ったことで腹を立て、ヤコブさんを殺そうとしました。それからずいぶん時間がたっているのですが、ヤコブさんは自分のことをゆるしてくれているかどうか、とても不安でした。お兄さんに会うために、よく考えて贈り物も準備しました。

その夜、あたりが真っ暗い中で、神さまの使いとヤコブさんとの格闘が始まりました。ヤコブさんは、不安の中で神さまに祝福を求めて叫びました。そう、この格闘は、ヤコブさんの祈りでした。夜が明けそうになっても、ヤコブさんはしがみついて離れませんでした。神さまの使いは、ヤコブさんのもものつがいを打ちました。もものつがいとは、足の関節のことで、ここを打たれたことでヤコブさんはびっこをひくようになりました。それでも、ヤコブさんは手を離しませんでした。「どうか、私を祝福してください」。神さまの使いは言いました。「あなたの名前は、ヤコブ（つかむ。自分の力でつかむ者）ではなくて、イスラエル（神さまと格闘する者）だ。あなたは、勝った」。勝った？でも、もものつがいははずされたまま。ヤコブさんは、弱くされたことで、人をだましたり、自分の都合や考えで事を進めるのではなく、神さまだけに頼るようになりました。自分の力や考えでは、不安や心配がつきません。でも、神さまが祝福してくださるなら大丈夫！ヤコブさんは、不安から喜びの心に変えられていました。



◆お祈り

「神さまの祝福を求めます。恐れや不安のときにも喜びに満たされて歩めるようにしてください。」  
(仙台のぞみ教会牧師 秋山善久)

4月20日

テーマ：主が共におられる

聖書箇所：創世記39章1節～23節

◆今日のみことば

“監獄の長は、ヨセフの手に任せたことについては何も干渉しなかった。それは【主】が彼とともにおられ、彼が何をしても、【主】がそれを成功させてくださったからである。” 創世記39章23節

◆メッセージ

皆さんはやってもいない悪い事をしたと言われて、誤解された(信じてもらえない)事がありますか。学校の友だちからわけもなくいじめられたりした事は、ないですか。

ヨセフさんは、ヤコブさんの息子たちの一人です。十三人兄弟の十二番目でしたが、ヤコブさんに特別に大切にされていました。兄弟たちからねたまれて、エジプトに奴隷に売られてしまいました。家族から離れて一人、きつい仕事をしなければなりません。でも



ヨセフさんは、任された仕事を一生懸命やりました。どんな仕事も不平を言わずにまじめにやりとおしました。隠れた所で見ておられる神さまが、きっと報いてくださると、ヨセフさんは信じていたからです。ところが、とんでもないことが起こったのです。奴隷にされた家で、まじめに働いていたヨセフさんでしたが、ご主人の悪い奥さんから、

うそをつかれてひどい目にあわされました。ろう屋に閉じこめられてしまったのです。「奥さんがうそをついている」と説明しても、誰も信じてくれません。牢から出ることもできません。これから一体どうなってしまうことでしょうか。神さまが喜んでくれるように生きようと、まじめに過ごしていたのに、どうして自分ばかりこんなひどい目に会うのだろうと、神さまをうらみたくなるかもしれません。でも驚くことに、ヨセフさんは牢の中でも落ち込まないで、なお、神さまを信じて誤解が解ける時を待っていたのです。どんなにひどい目にあわせられても、希望を失わないでまじめに暮らしていました。神さまが共にいて、ヨセフが何をしても成功できるように、祝福してくださいました。その結果、周りの人たちがみな、ヨセフさんを信頼して、重要な仕事を任せてくれるようになったのです。どんなにつらい事がおきても、神さまはあなたと共にいて支えてくれます。どんな時も神さまを信じましょう。



◆お祈り

「神さま、どんなにつらい時も、おちこんでしまう時でさえ、神さまがともにいて、信じる者をまもり支えてくれる事を感謝します。」 (下北沢聖書教会伝道師 山口孝子)

4月21日

テーマ：神が私を遣わした

聖書箇所：創世記45章1節～20節

◆今日のみことば

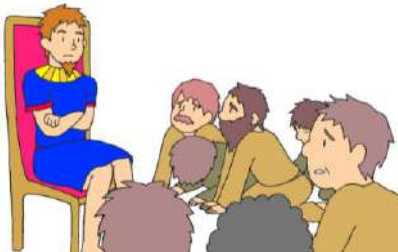
“だから、今、私をここに遣わしたのは、あなたがたではなく、実に、神なのです。”

創世記45章8節

◆メッセージ

あなたは、誰かにいじわるされたり、仲間はずれにされたことはありますか。そんな時、あなたは、いじわるしたり、仲間はずれにした人に、優しくしたり、ゆるしたりすることができますか。なかなかできませんね。人をゆるすということは、難しいことです。

牢屋に入れられたヨセフさんに大きなチャンスが訪れました。エジプト王の見た不思議な夢を説明することになったのです。それは、7年の豊作(食べ物がたくさんとれること)と7年の飢饉(食べ物がなくなってしまうこと)。エジプトの王は、神さまの知恵があるヨセフさんを総理大臣にしました。神さまは、ヨセフさんの心を、ちゃんと見ていてくださいました。苦しい毎日の中で、神さまを信じ続けたヨセフさんは、神さまに助けられ、守られ、何と、エジプトの総理大臣になったのでした。



そんなある日のこと、カナンの地からお兄さんたちが食糧をわけてもらいにやってきたのです。お兄さんたちは、エジプトの総理大臣がヨセフさんとは気がつきませんでした。お兄さんたちが自分のことで悔いていることもわかりました。

ヨセフさんはようやくわかりました。「この食べ物がなくなってしまう時にも、イスラエルの民を守るために、神さまは僕をエジプトに連れて来られたんだ！」そして、お兄さんたちに「今、私をここ(エジプト)に遣わしたのは、あなたがたではなく、実に、神なのです。」と優しく言うことができたのでした。お父さんのヤコブさんをはじめ、全家族をエジプトに呼び寄せて、飢饉の中でも安全に暮らせるようにしました。



私たちにも、「神さまに従っているのに、どうしてこんなことになるの？」ということが起こるかもしれません。すぐにはわからなくても、神さまのご計画があります。ヨセフさんと共にいて、ヨセフさんを守り用いてくださった神さまは、私たちと共にいて私たちを守ってくださいます。

◆お祈り

「神さま、私も、神さまの守りの中にあることを感謝します。神さまのみ手の中にあることを覚えて、人をゆるすことができるように助けてください。」

(二本松福音の家教会牧師 星沢数也)

4月22日

テーマ：モーセの誕生 たんじょう

聖書箇所：出エジプト記2章1節～10節 しゅつ せつ

◆今日のみことば

“その子が大きくなったとき、女はその子をパロの娘のもとに連れて行った。その子は王女の息子になった。彼女は、彼女はその子をモーセと名づけた。彼女は、「水の中から、私がこの子を引き出したのです」と言ったからである。” 出エジプト記2章10節 しゅつ

◆メッセージ

イスラエル人がみなでエジプトに住むようになったヨセフさんの頃から、400年くらい経ちました。エジプト人は、人数が増えていくイスラエル人を恐れて、奴隷にしていました。エジプトの王様はきびしい命令を出しました。「男の子が産まれたらすぐに殺すように。」イスラエル人は、神さまに助けをくださいと叫び祈っていました。そんなころ、一人の男の子が生まれました。こんなにかわいい子を殺せません。お母さんはなんとか隠して育てていました。赤ちゃんが大きな声で泣くようになり、隠しきれなくなったので、かごに入れてナイル川に流しました。エジプトの誰かが川から引き上げてくれるかもしれません。神さまが守ってくれるようにお祈りしたことでしょう。男の子のお姉さんは心配で遠くから見ていました。すると、なんと、エジプトの王女がちょうど川に水浴びに来ていたのです。そしてかごの中で泣いている赤ちゃんを見つけ、かわいそうに思って自分の子どもとして育てることにしました。それだけでなく、その子が乳離れするまで本当のお母さんが育てることになったのです。



この男の子はモーセと名づけられました。モーセはエジプトの王子となったので、殺されずにすみました。神さまには、このモーセをリーダーにして、エジプトで苦しめられているイスラエル人を救い出して、かれらに与えると約束された場所「カナン」に住まわせる、という計画があったのです。神さまは、イスラエルの民の祈りを聞いておられました。ほんとうに神さまはご自分の民を愛しておられ、約束をまもられるお方です。私たちもそれぞれ神さまに守られていて、神さまの特別なご計画の中で生かされ、働くのです。

◆お祈り

「神さま、いつも私を愛し、守っていてくださってありがとうございます。私を神さまの特別なご計画の中で働かせてください。」

(羽村聖書教会牧師 井原安祐)

4月23日

テーマ：モーセの召命<sup>しょうめい</sup>

聖書箇所：出エジプト記<sup>しゅつ</sup>3章<sup>き</sup>1節<sup>しやう</sup>～12節<sup>せつ</sup>

◆今日のみことば

“今、行け。わたしはあなたをパロのもとに遣わそう。わたしの民イスラエル人をエジプトから連れ出せ。” 出エジプト記3章10節

◆メッセージ

エジプトの王子として育ったモーセさんでしたが、エジプトで命を狙われることになって、ミデアンの荒野で住むようになりました。ミデアンの地に来て40年、結婚もして、羊飼いの仕事をしながらすっかり落ち着いて暮らしていました。モーセさんも、もう80才。そんなある日のことです。燃え続けている木があったので、不思議に思って近づいてみま



した。すると、神さまが語りかけてこられました。

「わたしがあなたをエジプトに遣わす。イスラエルの民を連れ出しなさい。」このことは、創世記の15章で、アブラハムさんに言っていておられたことでした。そんなことが、まさか自分に言われるなんて思ってもみなかったモーセさんは、びっくり仰天してしまいました。「なぜ、私

が？」命を狙われていたエジプトです。連れ出すといってもイスラエルの人々は自分の言うことを聞いてくれないかもしれません。モーセさんは尻込みしました。でも、神さまが「わたしが遣わす。」と言われたのです。モーセさんを選んだ神さまが、モーセさんに力を与え、責任をもってモーセさんを守ってくださるということです。神さまは、モーセさんを用いてイスラエルの民をエジプトから救い出してくださいます。

私たちにも、そんなことが起こることが、あるのかも、しれません。自分にとってはありえないことであっても、神さまの方が、私たちを、そうさせてしまうことが、あるからです。そんな時、神さまが言う通りに、進んでいくと、ちゃんと、歩いて行く道が、神さまから与えられていくから、不思議です。私たちの力が弱くても、心配で不安でも、神さまは何でもおできになりますから、安心です。

◆お祈り

「父なる神さま。み子イエスさま。聖霊なるかみさま。みことばを、ありがとうございます。今は、わたしたちには、わからないことでも、あなたが導いてくださり、私たちがついていくとき、私たちは、あなたのみこころにかなった方に、進んでいくことを信じます。アーメン。」

(好間キリスト福音教会牧師 平井直彦)



4月24日

テーマ：「<sup>すぎこ</sup>過<sup>まつ</sup>越<sup>まつ</sup>しの祭<sup>まつ</sup>り」

聖書箇所：<sup>しゅつ</sup>出<sup>き</sup>エジ<sup>しょう</sup>プト<sup>せつ</sup>記<sup>せつ</sup>12章<sup>せつ</sup>1～51節

◆今日のみことば

“あなたがたの<sup>いえいえ</sup>いる<sup>ち</sup>家々の<sup>ち</sup>血は、あなたがたのために<sup>し</sup>する<sup>し</sup>となる。わたしはその<sup>ち</sup>血を<sup>みて</sup>見て、あなたがたの<sup>ところ</sup>所<sup>とお</sup>を通<sup>こ</sup>り越<sup>こ</sup>そう。わたしがエジプトの地を打つとき、あなたがたには<sup>ほろ</sup>滅<sup>お</sup>びの<sup>しゅつ</sup>わざ<sup>き</sup>わいは<sup>しょう</sup>起<sup>せつ</sup>こらない。”  
出エジプト記12章13節

◆メッセージ

みなさんは<sup>けが</sup>怪我をした<sup>とき</sup>時に、<sup>ち</sup>血が出た<sup>こと</sup>ことがありますか。<sup>ま</sup>真<sup>か</sup>つ赤<sup>ち</sup>な<sup>で</sup>血が出ると、もうビックリしてしまいますね。モーセさんがイスラエルの<sup>ひとびと</sup>人々をエジプトの国から<sup>くに</sup>助<sup>たす</sup>け出<sup>だ</sup>したとき、<sup>かみ</sup>神さまその<sup>たいせつ</sup>大切な<sup>ち</sup>血<sup>つか</sup>を使う<sup>おし</sup>ように、と<sup>おし</sup>教<sup>おし</sup>えられた<sup>こと</sup>のです。

エジプトの<sup>おうさま</sup>王様は<sup>どれい</sup>奴隷であったイスラエルの<sup>ひとびと</sup>人々に、<sup>かんたん</sup>簡単には<sup>で</sup>出<sup>い</sup>て行<sup>い</sup>っていいとは<sup>い</sup>言<sup>い</sup>いませんでした。そこで<sup>かみ</sup>神さまは<sup>さいご</sup>最後の<sup>さいご</sup>最後に、<sup>こひつじ</sup>小羊の<sup>ち</sup>血<sup>つか</sup>を使う<sup>こと</sup>にした<sup>こと</sup>のです。



「<sup>こひつじ</sup>小羊の<sup>ち</sup>血<sup>いえ</sup>を<sup>はしら</sup>家の<sup>ぬ</sup>柱<sup>かみ</sup>と<sup>かみ</sup>かもいに<sup>ぬ</sup>塗<sup>ぬ</sup>りなさい。そして<sup>かみ</sup>神<sup>かみ</sup>さまが<sup>めい</sup>命<sup>めい</sup>じられた<sup>しよくじ</sup>ように<sup>かみ</sup>食<sup>かみ</sup>事を<sup>かみ</sup>しなさい。神<sup>かみ</sup>さまはその<sup>よる</sup>夜、<sup>いえいえ</sup>エジプトの<sup>み</sup>家々<sup>ち</sup>を見て、<sup>ぬ</sup>血<sup>いえ</sup>の<sup>い</sup>塗<sup>い</sup>ってある<sup>い</sup>家は<sup>い</sup>守<sup>い</sup>り、<sup>ち</sup>血<sup>ぬ</sup>の<sup>いえ</sup>塗<sup>い</sup>っていない<sup>い</sup>家は<sup>けらい</sup>さば<sup>い</sup>かれます。王<sup>おう</sup>様の<sup>い</sup>家<sup>い</sup>も、<sup>けらい</sup>家<sup>い</sup>来<sup>い</sup>の<sup>い</sup>家<sup>い</sup>も、<sup>い</sup>奴<sup>い</sup>隷<sup>ち</sup>の家<sup>ぬ</sup>も<sup>い</sup>血<sup>ぬ</sup>が<sup>い</sup>塗<sup>い</sup>っていない<sup>い</sup>なら、<sup>さいしよ</sup>最初<sup>うま</sup>に<sup>い</sup>生<sup>い</sup>れた<sup>い</sup>人<sup>い</sup>が、<sup>ひと</sup>人<sup>ひと</sup>でも<sup>どうぶつ</sup>動物<sup>し</sup>でも<sup>し</sup>死<sup>し</sup>に<sup>ま</sup>す！」

<sup>よる</sup>夜<sup>よる</sup>になり、<sup>ひとびと</sup>イスラエルの<sup>ち</sup>人々は<sup>ぬ</sup>血<sup>ぬ</sup>を<sup>ぬ</sup>塗<sup>ぬ</sup>り、<sup>ま</sup>じつと<sup>ま</sup>待<sup>ま</sup>って<sup>ま</sup>いました。エジプトの<sup>ひとびと</sup>人々は<sup>はなし</sup>そんな<sup>しん</sup>話<sup>しん</sup>を<sup>い</sup>信<sup>い</sup>じ<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>せ<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>で<sup>い</sup>した<sup>い</sup>が、<sup>い</sup>や<sup>い</sup>が<sup>い</sup>て<sup>い</sup>あ<sup>い</sup>ち<sup>い</sup>こ<sup>い</sup>ち<sup>い</sup>の<sup>い</sup>家<sup>い</sup>か<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>泣<sup>い</sup>き<sup>い</sup>声<sup>い</sup>が<sup>い</sup>聞<sup>い</sup>こ<sup>い</sup>え<sup>い</sup>て<sup>い</sup>き<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>した。神<sup>かみ</sup>さまの<sup>かた</sup>語<sup>かた</sup>られた<sup>あか</sup>と<sup>い</sup>お<sup>い</sup>り、<sup>い</sup>か<sup>い</sup>わ<sup>い</sup>い<sup>い</sup>い<sup>い</sup>赤<sup>い</sup>ちゃん<sup>い</sup>や<sup>い</sup>一<sup>い</sup>番<sup>い</sup>上<sup>い</sup>の<sup>い</sup>お<sup>い</sup>兄<sup>い</sup>さん<sup>い</sup>が<sup>い</sup>死<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>で<sup>い</sup>し<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>した<sup>い</sup>か<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>です。その<sup>かな</sup>悲<sup>おお</sup>し<sup>おお</sup>みが<sup>お</sup>大<sup>お</sup>き<sup>お</sup>か<sup>お</sup>った<sup>お</sup>ので、<sup>お</sup>エ<sup>お</sup>ジ<sup>お</sup>プ<sup>お</sup>ト<sup>お</sup>の<sup>お</sup>王<sup>お</sup>様<sup>お</sup>は<sup>い</sup>つ<sup>い</sup>に<sup>い</sup>モー<sup>い</sup>セ<sup>い</sup>さん<sup>い</sup>に<sup>い</sup>言<sup>い</sup>いま<sup>い</sup>した。『あなたがたは<sup>くに</sup>国<sup>で</sup>を出<sup>い</sup>て<sup>い</sup>行<sup>い</sup>つ<sup>い</sup>ても<sup>い</sup>よ<sup>い</sup>い。もう<sup>い</sup>こ<sup>い</sup>れ<sup>い</sup>以<sup>い</sup>上<sup>い</sup>私<sup>い</sup>たち<sup>い</sup>を<sup>くる</sup>苦<sup>くる</sup>し<sup>くる</sup>め<sup>くる</sup>ない<sup>くる</sup>で<sup>くる</sup>くれ。』それで<sup>い</sup>イス<sup>い</sup>ラ<sup>い</sup>エ<sup>い</sup>ル<sup>い</sup>の<sup>い</sup>人<sup>い</sup>々<sup>い</sup>は<sup>い</sup>全<sup>い</sup>員<sup>い</sup>、<sup>い</sup>エ<sup>い</sup>ジ<sup>い</sup>プ<sup>い</sup>ト<sup>い</sup>か<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>助<sup>い</sup>け<sup>い</sup>出<sup>い</sup>さ<sup>い</sup>れた<sup>い</sup>の<sup>い</sup>です。

その<sup>よる</sup>夜<sup>よる</sup>の、<sup>かみ</sup>神<sup>かみ</sup>さまの<sup>すく</sup>救<sup>わす</sup>いを<sup>さだ</sup>忘<sup>さだ</sup>れ<sup>さだ</sup>ない<sup>さだ</sup>よ<sup>さだ</sup>う<sup>さだ</sup>に<sup>さだ</sup>定<sup>さだ</sup>め<sup>さだ</sup>ら<sup>さだ</sup>れた<sup>さだ</sup>の<sup>さだ</sup>が、<sup>すぎこ</sup>過<sup>まつ</sup>越<sup>まつ</sup>の<sup>ち</sup>祭<sup>ち</sup>り<sup>ち</sup>です。その<sup>ち</sup>血<sup>ち</sup>は<sup>ぎせい</sup>犠<sup>ち</sup>牲<sup>ち</sup>の<sup>ち</sup>血<sup>ち</sup>、<sup>み</sup>身<sup>み</sup>代<sup>み</sup>わり<sup>ち</sup>の<sup>ち</sup>血<sup>ち</sup>だ<sup>ち</sup>った<sup>ち</sup>の<sup>ち</sup>です。いま<sup>わたし</sup>の<sup>わたし</sup>私<sup>わたし</sup>たち<sup>つみ</sup>には、<sup>つみ</sup>イ<sup>つみ</sup>エ<sup>つみ</sup>ス<sup>つみ</sup>さ<sup>つみ</sup>ま<sup>つみ</sup>が<sup>つみ</sup>私<sup>つみ</sup>たち<sup>つみ</sup>の<sup>つみ</sup>罪<sup>つみ</sup>の<sup>つみ</sup>代<sup>つみ</sup>わり<sup>つみ</sup>に<sup>つみ</sup>十<sup>つみ</sup>字<sup>つみ</sup>架<sup>つみ</sup>に<sup>つみ</sup>掛<sup>つみ</sup>か<sup>つみ</sup>っ<sup>つみ</sup>て<sup>つみ</sup>く<sup>つみ</sup>だ<sup>つみ</sup>さ<sup>つみ</sup>り、<sup>つみ</sup>血<sup>つみ</sup>を<sup>つみ</sup>流<sup>つみ</sup>し<sup>つみ</sup>て<sup>つみ</sup>く<sup>つみ</sup>だ<sup>つみ</sup>さ<sup>つみ</sup>った<sup>つみ</sup>の<sup>つみ</sup>で<sup>つみ</sup>その<sup>つみ</sup>罪<sup>つみ</sup>が<sup>つみ</sup>ゆる<sup>つみ</sup>さ<sup>つみ</sup>れて<sup>つみ</sup>い<sup>つみ</sup>る<sup>つみ</sup>の<sup>つみ</sup>です。

◆お祈り

「<sup>かみ</sup>神<sup>かみ</sup>さま。むかし<sup>ひと</sup>イス<sup>こひつじ</sup>ラ<sup>ち</sup>エ<sup>ち</sup>ル<sup>ち</sup>の<sup>すく</sup>人<sup>すく</sup>たち<sup>すく</sup>を<sup>すく</sup>小<sup>すく</sup>羊<sup>すく</sup>の<sup>すく</sup>血<sup>すく</sup>によ<sup>すく</sup>つて<sup>すく</sup>お<sup>すく</sup>救<sup>すく</sup>い<sup>すく</sup>く<sup>すく</sup>だ<sup>すく</sup>さ<sup>すく</sup>つ<sup>すく</sup>た<sup>すく</sup>よ<sup>すく</sup>う<sup>すく</sup>に、<sup>い</sup>いま<sup>い</sup>は<sup>い</sup>イ<sup>い</sup>エ<sup>い</sup>ス<sup>い</sup>さ<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>の<sup>い</sup>十<sup>い</sup>字<sup>い</sup>架<sup>い</sup>によ<sup>い</sup>つて<sup>い</sup>、<sup>い</sup>罪<sup>い</sup>ゆる<sup>い</sup>さ<sup>い</sup>れて<sup>い</sup>い<sup>い</sup>る<sup>い</sup>こ<sup>い</sup>と<sup>い</sup>を<sup>い</sup>感<sup>い</sup>謝<sup>い</sup>し<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>す。神<sup>かみ</sup>さまが<sup>かた</sup>お<sup>かた</sup>語<sup>かた</sup>り<sup>かた</sup>に<sup>かた</sup>なる<sup>かた</sup>こ<sup>かた</sup>と<sup>かた</sup>を<sup>かた</sup>素<sup>かた</sup>直<sup>かた</sup>に<sup>かた</sup>信<sup>かた</sup>じて<sup>かた</sup>従<sup>かた</sup>う<sup>かた</sup>こ<sup>かた</sup>と<sup>かた</sup>が<sup>かた</sup>で<sup>かた</sup>き<sup>かた</sup>ま<sup>かた</sup>す<sup>かた</sup>よ<sup>かた</sup>う<sup>かた</sup>に<sup>かた</sup>導<sup>かた</sup>い<sup>かた</sup>て<sup>かた</sup>く<sup>かた</sup>だ<sup>かた</sup>さ<sup>かた</sup>い。アーメン。」

(相馬キリスト福音教会牧師 東頭 戌)

4月25日

テーマ：導みちびいてくださる神かみさま

聖書箇所：出しゅつエジプト記き13章しやう17～22節せつ

◆今日のみことば

“昼はこの雲の柱、夜はこの火の柱が民の前から離れなかった。”

出エジプト13章22節

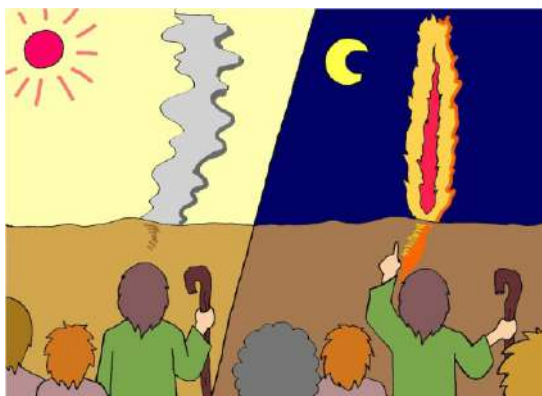
◆メッセージ

みんなはお父さん・お母さんからお使いを頼まれたことがありますか。子どもの頃、お金と手書きの地図と買う物を書いた紙を手渡され、ドキドキしながら八百屋とお肉屋に行ったことを今でも覚えていてます。なんだか心細くて、道を間違えていないか何度も確認したり、通りがかりの人に道を聞いたりして、やっと目的地にたどり着いた時はとても嬉しかったものです。

大人の人たちの多くはスマートフォンを持っています。これは便利な道具で、声に従って進むと知らない場所でもちゃんと目的地まで連れて行ってくれる優れものです。だからスマートフォンをなくしたら大変です。どこをどう行ったらいいのかわからず慌ててしまうことでしょう。

モーセさんがいた頃はまだスマートフォンはありません。地図もなければガイドもいません。高い建物もない、何もなし、広い荒野をイスラエルの人たちはひたすら四十年も歩きました。

でもモーセさんたちは迷いませんでした。なぜならモーセさんたちの前には昼は雲の柱、夜は火の



柱がいつもあってそれらが目印になっていたからです。

途中で消えたり見えなくなることもありませんでした。

天と地をつくられた神さまが雲の柱と火の柱になって

こっちだよと導いてくれたのでモーセさんたちは安心

して進むことができました。

この頃はよくスマートフォンを手にする大人の人たち

をよく見かけます。朝起きたらスマートフォンを見、家に

いても電車に乗っていてもネットばかりをやっている大人たちは本当に神さまを頼っているとは思えません。

せっかく神さまがこっちだよと言っているのに、ネットの言うことばかりを頼っているようでは神さまが悲しみます。

イエスさまも「わたしに従いなさい」と言っています。まず神さまの言うことに従わなくてはなりません。

今は雲の柱や火の柱は見えませんが、私たちの持っている聖書こそが雲の柱であり火の柱です。

これから大人になり、いろいろなことがあると思いますが、神さまがこっちだよと導いておられる道へ進んでいきましょう。

◆お祈り

「神さま、これからも雲の柱・火の柱となって聖書の御言葉で私たちを導いてください。そして安心して従うことができますようにお祈りします。」

(湯本キリスト福音教会牧師 山本信義)

4月26日

テーマ：「<sup>こう</sup>紅<sup>かい</sup>海」

聖書箇所：出<sup>しゅつ</sup>エジプト記<sup>き</sup>13章<sup>しょう</sup>22節<sup>せつ</sup>～14章<sup>しょう</sup>32節<sup>せつ</sup>

◆今日のみことば

“<sup>おそ</sup>恐<sup>おそ</sup>れてはいけない。し<sup>た</sup>っか<sup>り</sup>立<sup>た</sup>って、き<sup>ょう</sup>う、あ<sup>な</sup>た<sup>が</sup>た<sup>の</sup>た<sup>め</sup>に<sup>い</sup>な<sup>わ</sup>れ<sup>る</sup>主<sup>の</sup>救<sup>すく</sup>いを<sup>み</sup>見<sup>な</sup>さい。”

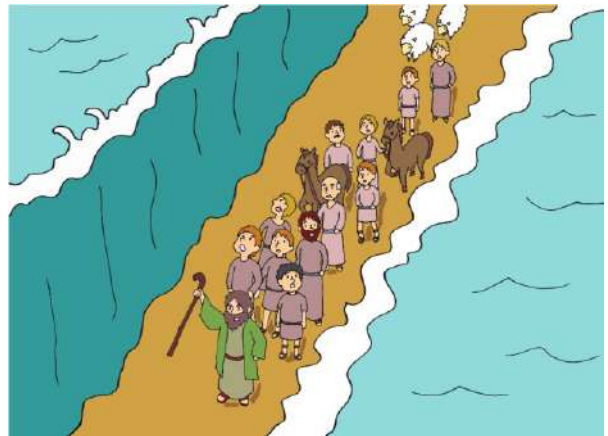
出<sup>しゅつ</sup>エジプト記<sup>き</sup>14章<sup>しょう</sup>13節<sup>せつ</sup>

◆メッセージ

みなさんは、神<sup>かみ</sup>さまが私<sup>わたし</sup>たちが考<sup>かんが</sup>えもしないよ<sup>う</sup>な、驚<sup>おどろ</sup>くよ<sup>う</sup>な方<sup>ほう</sup>法<sup>ほう</sup>で助<sup>たす</sup>けてくだ<sup>さ</sup>るこ<sup>と</sup>を<sup>し</sup>知<sup>ら</sup>っていま<sup>す</sup>か。イスラエ<sup>い</sup>ル<sup>と</sup>の人<sup>ひと</sup>々<sup>と</sup>はエジ<sup>え</sup>プ<sup>と</sup>ト<sup>と</sup>で奴<sup>ど</sup>隷<sup>れい</sup>と<sup>し</sup>て、毎<sup>まい</sup>日<sup>にち</sup>つ<sup>ら</sup>い<sup>し</sup>事<sup>ごと</sup>に<sup>く</sup>る<sup>し</sup>でいま<sup>し</sup>た。そ<sup>れ</sup>で神<sup>かみ</sup>さまは<sup>か</sup>も<sup>せ</sup>と<sup>い</sup>う<sup>し</sup>指<sup>し</sup>導<sup>どう</sup>者<sup>しゃ</sup>を<sup>あ</sup>た<sup>ら</sup>へ<sup>ら</sup>れ<sup>て</sup>、多<sup>お</sup>く<sup>の</sup>不<sup>ふ</sup>思<sup>し</sup>議<sup>ぎ</sup>な<sup>わ</sup>ざ<sup>を</sup>行<sup>おこな</sup>い、エジ<sup>え</sup>プ<sup>と</sup>ト<sup>と</sup>から助<sup>たす</sup>け<sup>だ</sup>出<sup>だ</sup>して<sup>く</sup>れ<sup>ま</sup>し<sup>た</sup>。

イスラエ<sup>い</sup>ル<sup>と</sup>の人<sup>ひと</sup>々<sup>と</sup>がエジ<sup>え</sup>プ<sup>と</sup>ト<sup>と</sup>から<sup>で</sup>出<sup>い</sup>て<sup>い</sup>く<sup>の</sup>を<sup>ゆる</sup>し<sup>た</sup>エジ<sup>え</sup>プ<sup>と</sup>ト<sup>と</sup>の王<sup>おう</sup>様<sup>さま</sup>で<sup>し</sup>た<sup>が</sup>、そ<sup>の</sup>心<sup>こころ</sup>を<sup>かみ</sup>神<sup>かみ</sup>さま<sup>が</sup>か<sup>た</sup>く<sup>な</sup>に<sup>さ</sup>れ<sup>た</sup>の<sup>で</sup>、も<sup>う</sup>一<sup>い</sup>ち<sup>ど</sup>度<sup>ど</sup>イスラエ<sup>い</sup>ル<sup>と</sup>の人<sup>ひと</sup>々<sup>と</sup>を<sup>つ</sup>れ<sup>も</sup>ど<sup>う</sup>に<sup>ま</sup>り<sup>か</sup>え<sup>さ</sup>う<sup>と</sup>、た<sup>く</sup>さ<sup>ん</sup>の<sup>ぐん</sup>隊<sup>たい</sup>、馬<sup>うま</sup>、戦<sup>せん</sup>車<sup>しゃ</sup>で<sup>お</sup>い<sup>か</sup>け<sup>ま</sup>し<sup>た</sup>。よ<sup>う</sup>や<sup>く</sup>の<sup>おも</sup>い<sup>で</sup>エジ<sup>え</sup>プ<sup>と</sup>ト<sup>と</sup>から<sup>に</sup>だ<sup>し</sup>て<sup>い</sup>スラエ<sup>い</sup>ル<sup>と</sup>の人<sup>ひと</sup>々<sup>と</sup>で<sup>し</sup>た<sup>が</sup>、目<sup>め</sup>の<sup>ま</sup>え<sup>に</sup>は<sup>こ</sup>う<sup>かい</sup>と<sup>い</sup>う<sup>う</sup>み<sup>ひろ</sup>が<sup>う</sup>し<sup>ろ</sup>に<sup>は</sup>エジ<sup>え</sup>プ<sup>と</sup>ト<sup>と</sup>の<sup>ぐん</sup>隊<sup>たい</sup>が<sup>せ</sup>ま<sup>り</sup>に<sup>ば</sup>が<sup>な</sup>く<sup>な</sup>っ<sup>て</sup>し<sup>ま</sup>し<sup>た</sup>。そ<sup>こ</sup>で、イスラエ<sup>い</sup>ル<sup>と</sup>の人<sup>ひと</sup>々<sup>と</sup>は、指<sup>し</sup>導<sup>どう</sup>者<sup>しゃ</sup>モ<sup>も</sup>ー<sup>も</sup>ん<sup>く</sup>と<sup>い</sup>う<sup>い</sup>だ<sup>い</sup>の<sup>だ</sup>を<sup>い</sup>い<sup>だ</sup>し<sup>た</sup>の<sup>で</sup>す。「あ<sup>な</sup>た<sup>は</sup>私<sup>わたし</sup>たち<sup>を</sup>、こ<sup>の</sup>あ<sup>ら</sup>の<sup>し</sup>で<sup>し</sup>な<sup>せ</sup>る<sup>の</sup>で<sup>す</sup>か」と。

でも神<sup>かみ</sup>さまは<sup>つ</sup>え<sup>う</sup>み<sup>う</sup>え<sup>さ</sup>に<sup>さ</sup>し<sup>だ</sup>し、海<sup>うみ</sup>を<sup>わ</sup>け<sup>て</sup>、民<sup>たみ</sup>たち<sup>を</sup>海<sup>うみ</sup>の<sup>ち</sup>か<sup>わ</sup>い<sup>た</sup>地<sup>ち</sup>を<sup>すす</sup>ま<sup>せ</sup>な<sup>さ</sup>い。」と<sup>めい</sup>じ<sup>ら</sup>れ<sup>た</sup>の<sup>で</sup>す。モ<sup>も</sup>ー<sup>も</sup>ん<sup>く</sup>と<sup>い</sup>う<sup>い</sup>だ<sup>い</sup>の<sup>だ</sup>が<sup>そ</sup>の<sup>とお</sup>り<sup>に</sup>す<sup>る</sup>と、海<sup>うみ</sup>の<sup>み</sup>ず<sup>み</sup>ぎ<sup>ひ</sup>だ<sup>り</sup>に<sup>わ</sup>か<sup>べ</sup>に<sup>なり</sup>陸<sup>りく</sup>地<sup>ち</sup>が<sup>でき</sup>た<sup>の</sup>で<sup>す</sup>。イスラエ<sup>い</sup>ル<sup>と</sup>の人<sup>ひと</sup>々<sup>と</sup>は<sup>お</sup>お<sup>い</sup>そ<sup>ぎ</sup>で<sup>ぜん</sup>員<sup>いん</sup>、海<sup>うみ</sup>を<sup>わた</sup>り<sup>ま</sup>し<sup>た</sup>。追<sup>お</sup>い<sup>か</sup>け<sup>て</sup>来<sup>き</sup>た<sup>エ</sup>ジ<sup>え</sup>プ<sup>と</sup>ト<sup>と</sup>の<sup>ぐん</sup>隊<sup>たい</sup>も<sup>う</sup>み<sup>ち</sup>を<sup>わた</sup>ら<sup>う</sup>と<sup>し</sup>た<sup>の</sup>で<sup>す</sup>が、モ<sup>も</sup>ー<sup>も</sup>ん<sup>く</sup>と<sup>い</sup>う<sup>い</sup>だ<sup>い</sup>の<sup>だ</sup>が<sup>も</sup>う<sup>い</sup>ち<sup>ど</sup>度<sup>ど</sup>、つ<sup>え</sup>う<sup>み</sup>う<sup>え</sup>に<sup>さ</sup>し<sup>だ</sup>し<sup>と</sup>海<sup>うみ</sup>が<sup>も</sup>と<sup>に</sup>ま<sup>り</sup>、エジ<sup>え</sup>プ<sup>と</sup>ト<sup>と</sup>の<sup>ぐん</sup>隊<sup>たい</sup>も<sup>せん</sup>し<sup>ゃ</sup>も<sup>ぜん</sup>ぶ<sup>も</sup>、海<sup>うみ</sup>に<sup>のみ</sup>こ<sup>ま</sup>れ<sup>て</sup>し<sup>ま</sup>い<sup>ま</sup>し<sup>た</sup>。



こ<sup>の</sup>よ<sup>う</sup>に<sup>かみ</sup>神<sup>かみ</sup>さま<sup>は</sup>、驚<sup>おどろ</sup>くよ<sup>う</sup>な<sup>ほう</sup>法<sup>ほう</sup>で、イスラエ<sup>い</sup>ル<sup>と</sup>の人<sup>ひと</sup>々<sup>と</sup>を<sup>すく</sup>お<sup>す</sup>け<sup>い</sup>く<sup>だ</sup>さ<sup>い</sup>ま<sup>し</sup>た<sup>。私</sup>たち<sup>も</sup>自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>で<sup>は</sup>「も<sup>う</sup>だ<sup>め</sup>だ」と<sup>お</sup>も<sup>う</sup>よ<sup>う</sup>な<sup>とき</sup>も、恐<sup>おそ</sup>れ<sup>な</sup>い<sup>で</sup>、神<sup>かみ</sup>さま<sup>の</sup>助<sup>たす</sup>け<sup>を</sup>祈<sup>いの</sup>り、ま<sup>ち</sup>ま<sup>し</sup>よ<sup>う</sup>。

◆お祈り

「神<sup>かみ</sup>さま<sup>が</sup>私<sup>わたし</sup>たち<sup>の</sup>た<sup>め</sup>に<sup>も</sup>、不<sup>ふ</sup>思<sup>し</sup>議<sup>ぎ</sup>な<sup>ほう</sup>法<sup>ほう</sup>で<sup>たす</sup>く<sup>だ</sup>さ<sup>る</sup>と<sup>しん</sup>信<sup>しん</sup>じて、い<sup>つ</sup>も<sup>お</sup>ゆ<sup>だ</sup>ね<sup>で</sup>き<sup>ま</sup>す<sup>よ</sup>う<sup>に</sup>。」

(相馬キリスト福音教会伝道師 東頭寿子)

4月27日

テーマ：「マナ」

聖書箇所：出エジプト記16章1節～31節

◆今日のみことば

“イスラエル人はこれを見て、『これは何だろう』と互いに言った。彼らはそれが何か知らなかったからである。モーセは彼らに言った。「これは、主があなたがたに食物として与えてくださったパンです。」

出エジプト記16章15節

◆メッセージ

私たちが毎日生きていくために、なくてはならない物は何でしょう。食べ物、着る物、住む家などです。元気な心と体のためにバランスのよいおいしい食事。暑さ寒さを防ぎ、体を守る洋服。安心して眠り、暮らす家。これらの一つがないだけでも、すぐに困ってしまいます。

エジプトを出、海を渡ったイスラエルの人々はシンという名の土地に着きました。ゴツゴツの岩山、干からびた地で川もなく、木や草もない荒れ果てた所。昼間は暑く、夜は寒く、食べ物がなくて、お腹はペコペコ。疲れてぐったりでした。「奴隷だったけれど、エジプトに居た時の方がまだ良かった、こんな所で飢え死にしそうだ」と文句を言いました。その時、神さまは天からパンが降るようにしてくれました。朝、起きて外に出てみると地面一杯に白い霜のような、うろこの



ように見える物がありました。この天から降ってきた食べ物、パンを人々はマナと呼びました。神さまはこのマナを毎日、必要な分だけ降らせてくれました。礼拝の前の日には、二日分のマナが降り、次の日はマナのために働くことなく神さまを礼拝しました。

食べる物がなくお腹がペコペコだったので、マナが与えられてイスラエルの人々は大喜びし、神さまに感謝して

食べました。今はマナはありませんが、聖書の言葉があります。私たちが食べ物によって元気になる、体が成長します。それとおなじように、私たちの信仰は聖書の言葉で成長し、強くなります。私たちが生きていくための食べ物、聖書の言葉、全ての必要な物は全部神さまが与えてくれます。

◆お祈り

「体のために食事を、信仰のために聖書の言葉を与えてください。必要な物は全部、神さまがくださることを感謝します。」

(勿来キリスト福音教会伝道師 住吉美和子)

4月28日

テーマ：「アマレク人との戦い」

聖書箇所：出エジプト記17章8節～16節

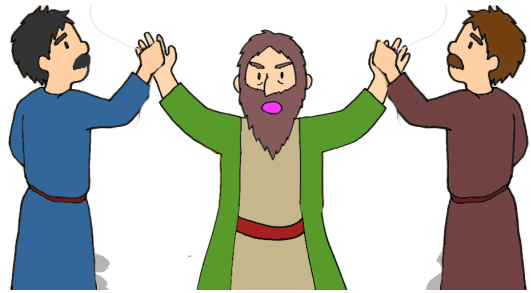
◆今日のみことば

“しかし、モーセの手が重くなった。彼らは石を取り、それをモーセの足もとに置いたので、モーセはその上に腰掛けた。アロンとフルは、ひとりはこちら側、ひとりはこちら側から、モーセの手をささえた。それで彼の手は日が沈むまで、しっかりそのままであった。”

出エジプト記17章12節

◆メッセージ

モーセさんは、ヨシュアさんに総司令官として出て行って、アマレク人と戦いなさいと命じました。初めて戦いに行くヨシュアさんは、きっと怖かったですよね。モーセさんが、丘の上で両手を上げて創造主なる神さまに祈っていると、ヨシュアさん率いるイスラエル人は優勢になり、モーセさんが手を下して祈りをやめるとアマレク人が優勢となりました。アロンさんとフルさんがモーセさんの手を支えたので、モーセさんは神さまに祈り続けることができました。こうしてヨシュアさんはモーセさんの祈りに支えられ、アマレク人に勝つことができました。



私たちにも毎日、いろいろな戦いがあると思います。朝起きるのがにがてな人、お友達と仲良くできるかと悩んでいる人、家族のことや病気の心配など、いろいろなことと戦っているかもしれません。イエスさまにお祈りはしていても、お祈りしたことを忘れて過ごしていることもよくありませんか。モーセさんの祈りの手が下がってしまうように、私たちも戦いに負けそうになると落ちこんでしまいます。でもだいじょうぶ。アロンさんとフルさんがモーセさんの手を支えたように、私さまのために多くの祈りのお友だちが支えてくれているのです。戦いに負けそうなときでも、いつもいっしょにいてくださる神さまの約束を信じて、助けを求めましょう。神さまはとりなしの祈りにこたえてくださるのです。そして、誰よりも主イエスさまが、いつもあなたのために祈ってくださっていますよ。私たちもお互いに、とりなしのお祈りをしてゆきましょう。

◆お祈り

「いつもどんなときでも、私のために祈ってくれる人たちがいることをありがとうございます。私もお友だちのために祈りますから、イエスさま、守ってあげてください。」

(那須高原教会牧師 近藤秀夫)

4月29日

かみがみ  
テーマ：「ほかの神々があつてはならない」

しゅつ き しょう せつ せつ  
聖書箇所：出エジプト記20章1節～3節



◆今日のみことば

“あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があつてはならない。”

しゅつ き しょう せつ  
出エジプト記20章3節

◆メッセージ

あなたには宝物がありますか。あなたのお父さんやお母さんにとっては、あなたが宝物でしょうね。お父さんやお母さんがあなたを愛しているように、神さまはあなたを愛しておられます。あなたを愛し、あなたを救ってくださる神さまは、あなたに命じておられます。「わたしがあなたを愛しているから、あなたはわたしを第一とし、わたしを礼拝しなさい。ほかのものを第一にしたり、礼拝したりしてはいけません」と。

私たちは神さまをいちばんにして、神さまだけを礼拝しましょう。でも気をつけていないと、ほかのものが神さまのとなりにおいて、私たちの心をうばってしまうことがあります。神さまは仏像や神社などのほかの神さまも礼拝しながら、まことの神さまを礼拝するのをきらわれます。それはそうですね。たとえばあなたのお母さんの前で、あなたが別の人をお母さんと呼んで甘えたら、お母さんの心は痛むでしょう。ほかの人の信仰を馬鹿にしたりしてはいけません。文化財は大切にしましょう。でも、それをまことの神さまといっしょに礼拝してはいけません。

家族や友だち、お金や仕事、学校や会社、国や名誉、趣味や遊び、どれもみんな大切です。でも、これらを礼拝してはいけません。お金を礼拝するということは、お金のためなら何でもしてしまうということです。それではお金の奴隷ですね。お金を神さまにしてしまつてはいけません。ネブカデネザルという王さまがドラの平野に金の像を立て、「国民はみんな、拝みなさい」と命令した時、ダニエルさんと仲間たちは拝みませんでした。神さまより大切なものはないからです。神さまをいちばんにして、神さまだけを礼拝しましょう。神さまをいちばんにして、神さまだけを礼拝していると、神さまはあなたに、良い家族と友だち、正しいお金や仕事、すばらしい先生や良い成績、名誉や喜び楽しみを、きっとくださるでしょう。



◆お祈り

「いつもどんなときでも、私のために祈ってくれる人たちがいることありがとうございます。

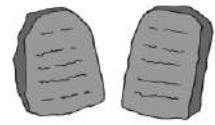
私もお友だちのためにお祈りしますから、イエスさま守ってあげてください。」

(市川福音キリスト教会牧師 山口陽一)

4月30日

テーマ：「偶像を造ってはならない」

聖書箇所：出エジプト記20章4節～6節



◆今日のみことば

“あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。上の天にあるものでも、下の地にあるものでも、地の下の水の中にあるものでも、どんな形をも造ってはならない。”

出エジプト記20章4節

◆メッセージ

神さまは人間を自分に似せてお造りになり、その人間を心から愛してくださいました。人間は神さまの愛を感じ、神さまの言うことを守り行っていくのが最高の幸せでした。ところがヘビが人間を誘惑したのです。「神さまに従ったって何にも良いことがない。あなた自身が神さまのようになりなさい」と。こうして人間は神さまから離れ、神さまの言うことを聞かなくなり、従わなくなりました。これが罪です。そのため人間は悩んだり苦しんだり悲しんだりするようになり、最後には死ぬことになったのです。

神さまは人間が神さまのことばを守り、幸せになるようにと分かりやすい10の命令、教えを与えました。その第2番目が、「あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない」です。偶像とは目には見えない神さまを木や石などで形に現したり、本物でない神さまを自分の考えや思いで作ったりすることです。そしてそのような偶像に向かって祈り、礼拝をし、願いごとをしたりするのです。こんな嘘の神さまが祈りや願いごとを聞いてくれるはずがありません。



偶像は見える形ばかりではありません。ある英語の聖書では偶像を「アイドル」と言っています。アイドルとは、その人にとって一番大切なものを意味する言葉です。たとえば好きな歌手が日曜日にコンサートをやるので、礼拝を休む。そんなことになればその歌手が、あなたにとってのアイドル(偶像)となってしまいます。神さまよりも大切なものがあってはいけませんね。



ただ一人この世界で神さまを現して下さった方がいます。それがイエス・キリストです(ヘブル1章3節)。ですからイエスさまを信じて、神さまのことが書いてある聖書を読むことがとても大切です。毎日、聖書を読む習慣をつけましょう。

◆お祈り

「神さま、イエスさまを信じて毎日、聖書を読む力をください。たくさんの偶像、嘘の神さまがいる日本から、人々を救いだしてください。アーメン！」

(勿来キリスト福音教会牧師 住吉英治)